

政治学概論 II 2024 w4 (1 月 22 日) 授業の感想

| 氏名 | Q1 | Q2 |
|-----|--------------------------------|--|
| 岩田 | 個人的なことは政治的である。 | 女性の私的な悩みが政治共同体全体で取り組むべき問題であるということに、冒頭の「保育園落ちた日本死ね」を踏まえて重要性を感じた。安倍元総理と山尾議員の動画の中で、安倍元総理が匿名だから事実かどうか分からないため対応できないというようなことを言っている場面があり、こっただけ待機児童の問題が出ているのにも関わらず、世間一般の声に対してその人の思いではなく事実確認にばかりこだわっているように感じた。このことから、子育ては女性の役目であるからわからないということであるのならば、女性がいないと子育ての問題は適切に取り扱えないのであり、そこにも男女の役割の固定化を感じた。待機児童問題で困っているのは女性だけであるというニュアンスにも違和感を感じたし、男性中心的な考え方によってしまう政治にも違和感を感じた。 |
| 内坂 | 私が面白いと思った箇所は政党の女性候補の擁立についてである。 | 政党が女性候補を擁立してこなかった背景や原因が印象に残ったからである。野党は与党と比べて候補者を変更しやすいにも関わらず、女性候補の擁立に消極的であることは課題であるということを知った。それにはプライバシーやハラスメントなどの問題が少なからず原因となっていることを知った。女性候補が少ない理由は有権者や立候補者のジェンダーバイアスや意識の低さだけでなく、政党内部にもあることが分かった。 |
| 宇名手 | ジェンダーと政治参加について | 「女性ならではの感性」や「女性の会議は長い」などといった現代にふさわしいとは言えない発言が女性の政治参加を阻む原因となっていること、男性に政治権力が集中していることなどを踏まえると、大磯町議会で実施されている男女同数議会は、現在の日本の政治においてとても重大な影響を与えるものであるように感じたから。 |
| 大石 | 男性議員と女性議員の関係と地方議会について関心を持った。 | 講義の中では男性議員と女性議員の私生活の注目の差が挙げられていたが、女性議員が少ないということが原因で一人一人に男性以上の期待・不満があり、これも女性が議員になりたいかどうかという問題に繋がってくると感じたから。また地方議会ではヤジが多いという話やかつて石丸氏が市長であった時に地方議会の惨状をテレビで見て、男女・年齢による考えの差が小規模な範囲になるほど注目されにくく、いまだ考えが固まってしまっている面があると感じたから。 |
| 大久保 | 日本と世界の憲法比較 | 日本国憲法が世界的に見ても語数が少ないということに驚いた。また、憲法内で「法律によって定める」というところがあるということを知り、法律で定めるということは立法府の与党にとって都合がよく、恣意的に決めることが制度的にはできるということで、一方の面から見れば、その時に適切で意味のある柔軟的な対応ができるということが言えるし、もう一方の面から見れば憲法の法律に対する優位性を無視した対応がなされているとも見れると思った。 |

(continued)

| 氏名 | Q1 | Q2 |
|-----|---------------------------------|--|
| 片山 | P173 女性の候補者が少ないことにある。 | そもそも、女性の候補者数が少ないなら、ジェンダー規範とか関係なしに、女性の政治家が少ないのは当然だとは思いう。しかし、クォーター制のような、強制的に女性議員の数を主権者の意思関係なしに増やすのは、民主主義の否定だと思うので、かなり難しい問題だと思う。個人的には、全議員女性だろうが男性だろうが、正直働いてくれればどちらでも良いと思っているが、そもそも、立候補の段階から、格差はあってはいけないと思うので、この解決方法を考えることは重要だとも思う。 |
| 片山 | 学校の校則のとこの話で、生徒が教育委員会に請願しに行ったこと。 | 学校や大学でも、教師や教授たちが権力を持っているので、抑圧され、生徒や学生はおかしなことで反抗しにくいと思う。しかし、現在自分もあることで教授に抗議しに行き、もしダメなら事を大きくする予定だが、こういう社会のおかしなことは、大人は当たり前だと思っているのか、変えるのを阻止してくるし、クソみたいな理由で怒ってくるので、新しい価値観を持っている人が、声を上げ行動しないと変わらないと思う。なので、今回はクソみたいな理由で不採用されているが、何よりも行動することが重要だと思った。 |
| 加藤 | 女性が議員に立候補できないジェンダーギャップについて | 重要だと思った理由は、女性の議員立候補に関係した重要な社会の仕組みがあると考えているからである。日本におけるジェンダーギャップについて、大きく関係しているのが労働者の安定供給に基づいた近代家族の在り方だと考える。政治活動も雇用の面でも男性が活動の多くを占め、女性が政治に参加するためのネットワークも少ない。そして、女性は子育てや家事といった伝統的な女性的役割が期待され、男性政治家と比べて軽視されたり、評価されたりしにくいことがある。また、女性は男性との賃金格差から、政治活動を行うための資金確保も困難だと考える。このような様々な伝統的価値観や事象が重なり合って、女性の議員立候補の少なさをはじめとしたジェンダーギャップが存在すると考える。 |
| 喜多川 | 憲法に統治機構に関する規定がないことの問題 | 憲法は統治権力を拘束し三権分立を規則しているというイメージであったので、統治機構に関する規定がないというところが盲点であったので興味がわいた。確かに、スライドにもあったように議会の過半数を取った議会勢力に都合の良いルール運用がされるという危険性があるということが理解でき、憲法に選挙制度への規定を設けるべきであると共感したから。 |
| 黒田 | 女性がいらない民主主義 | 女性の活躍について話し合う会に、日本のみ男性の議員が参加していることの異様さを感じたし、日本の政治における男性の割合は約8割で、そうになると子育てや不登校などの家庭的な事情は女性に押し当てられ、後回しにされてきたという事実にはショックを感じたからである。私は、安倍元首相のことは好きだが、山尾議員に対するステレオタイプな考え方や、具体的な数字や事実を述べている山尾議員をあしらうような形で答弁していて、日本の死が本当に近づいていると思ってしまった。 |

(continued)

| 氏名 | Q1 | Q2 |
|--------|---|---|
| 小松原（健） | ステレオタイプ | 「女性ならではの感性」「女性の会議は長い」という発言は、悪気のあるようなものには見えない。このようなステレオタイプは、年齢が高くなればなるほど多いのではないかと思う。特に政治界では、年齢層が高いイメージがあり、このようなステレオタイプが強く反映されており、女性の政治進出のインセンティブを削いでいるのではないだろうか。 |
| 小松原（暖） | 政治におけるジェンダー | 現代の日本の政治は高齢化しており、時々男性議員からの女性蔑視ともとれる発言や女性が選挙に出にくくなるようなハラスメント行為が見られる。このような状況が存在し、続く限り多様性のある政治は難しくなる一方であると感じた。政策においても男性議員と女性議員によって政策の価値基準にずれが生じることはしょうがないと感じるが動画にもあったような与野党の足の引っ張り合いでは政治は進まないと感じた。 |
| 高橋 | 女性のいない民主主義についての箇所が重要だと思った。 | その理由は、今回の授業を通して私自身女性議員の割合が世界的に見ても圧倒的に少ない現状があるにもかかわらず、日本の政治体制が民主主義と呼ばれているという矛盾点を初めて自覚したからである。女性の立候補者が極めて少ない実態に焦点化して考えた際、そもそも女性議員の私生活に向けられる関心が異常に高いことや立候補時に自宅の住所も公開しなければならないこと等、政治に関わる女性のプライバシーが全く保護されていない時点で真の民主主義を実現することは困難であるのではないかと感じた。 |
| 田辺 | 憲法の基本 | 憲法改正の経験が多い国は、その国の憲法に解釈の柔軟性がないといった課題から改正を行ってきたことを知った。改正されている事項は政治制度に関するものが多かったり、「国会議員の2/3以上の賛成が必要というルール」は他の国と比較してみたとき一般的であることを学んだ。このように各国の憲法を比較してみると、日本の憲法改正の必要性について前提に立ち返って考えることができたので、重要だと思った。 |
| 丹後 | 個人的なことは政治的なもの | 個人的なことは政治的なことであるという言葉は、初めて聞いたがとても納得のいく言葉であったから。確かに、女性がこ私的な悩みだと考えている子育てや性差別、待機児童などは、決して私的なもので終わらせず、社会全体で考えていく必要のある議題であるなど感じた。そのような考えを男女に関わらず発言、発信していくためには、SNSを有効的に使っていくという手も石丸氏のように考える必要があると思う。 |
| 西田 | 「男性だからこう、女性だからこうと決めつけるのは良くないと思うが～授業を行っていて良い成績をつけるのは女性の方が多い。～女性が物を知らないというのは決めつけである。」という先生の発言 | ジェンダー問題について、男性が女性を「下に見ている」とだけでなく、「女性の方が良い成績」という褒め言葉も問題だと感じる。重要なのは、女性をどう見ているかではなく、「決めつけ」をしていることが問題だと思う。女性は男性のことをすべて理解できないし、男性も女性のことをすべて理解できない。だから、お互いを知らないまま語ることが怒りを招くのではないかと考える。決めつけがなくなる限り、ジェンダー問題は解決しないと思う。 |

(continued)

| 氏名 | Q1 | Q2 |
|----|---|---|
| 丹羽 | ステレオタイプ | 自分は島根大学を受験する際、小論文の勉強で「女性のステレオタイプ」について勉強し、そこから女性差別の問題について考えることが多かったので「ステレオタイプ」という言葉が重要だと考えた。今回の講義で、女性の偏見が政治にも大きく表れていることを学んだ。特に印象に残った内容は、「女性候補者が政治家としてのリーダーシップを発揮しようとするれば『女性らしさに欠ける』と批判されてしまう」といったことである。このように「ステレオタイプによる批判」が減らなければ政治における女性の柔軟な考えは、なかなか反映されないと考える。 |
| 原田 | 政治の世界にあるステレオタイプについて | 岸田文雄前総理が「女性としての感性や共感力を十分に発揮して～」という発言で女性としての感性云々というのであれば男性としての感性という発言があっても良かったのになと感じた。この発言には政治という場の女性が少し稀であるかのようなことが無意識的に岸田元首相の中にあったからではないかと感じて面白いと感じたのでこの箇所を選んだ。政治の世界に限らず、「リケジョ」や「歴女」という言葉も同じようなものを感じるなと思った。 |
| 藤井 | 与党は選挙で候補者を変えづらく、男性が優位なこと。対して野党は候補者を変えやすいが女性候補をあまり擁立してこなかったこと。 | 与党、野党それぞれで女性議員の数が少ない理由に違いがある点がおもしろいと思ったため選んだ。女性議員を増やすために候補者均等法を整備したとしても、そもそも女性が立候補したいと思えない環境であることに大きな原因があると思った。この原因に対しての対応が急がれるが、男性議員が多数を占めるとともに、このまま職務を続けたい議員の多くがわざわざ環境整備に乗り出さないだろうと思うと、問題の解決には時間がかかるなと感じざるを得なかった。 |
| 藤田 | 山尾議員の動画について | 安倍総理が山尾議員に対して、「そんなに興奮しないでください」とあざ笑うかのように発言していたことが女性を下に見ているように感じたから。女性の活躍や男女平等は国会でも議題に上がるほど日本において重要な問題である。国会ではその議題について主導していくべき人たちが討論をしなくてはならない。しかし、女性議員の質問にまともに答えず、頭の良い事務方の意見に頼るようなことをするのは、この問題から目を背けていると思われても仕方ないことだと感じ、非常に印象に残った。 |
| 本田 | 女性のいない民主主義 | 現在の日本では男性に圧倒的に政治権力が集中している。これは特にこの日本で見られている現象であり、国民も無意識に女性＝議員のイメージが少ないのだと感じた。こういったステレオタイプは、岸田文雄首相や森喜朗元首相などの発言からも読み取ることができた。こういった国家の政治の責任を握るような人達でさえも、この女性のいない民主主義を意識しているのだと知ってとても肝心があった。 |

(continued)

| 氏名 | Q1 | Q2 |
|----|-----------------|---|
| 松本 | ステレオタイプについて | 日本において女性の議員が少ないことや、女性が男性に比べて政治に参加できていないと考えられている要因のうちの一つには、ステレオタイプがあげられると再認識できたから。特に無意識に発言していることも多く、スライドの中には「女性ならではの観点」といった言葉があげられていたがこれがまさに無意識的に男性と女性の考え方には差があるというステレオタイプなのではないかと感じた。このような発言を私たちのような市民だけでなく、国民の代表である議員がしてしまっていることから日本の政治の女性参加率はあまり今後も変化していかないのではないかと感じた。 |
| 三島 | 憲法改正の多い国家と少ない国家 | 憲法改正の頻度は、憲法の詳細度、統治機構の違い、改正手続の厳格さに左右される。ドイツやインドのように憲法の規定が詳細な国では、統治権力の裁量が限られ、制度変更のたびに憲法改正が必要となる。一方、日本のように憲法が簡潔な国では、法律による補完が可能であり、法改正によって制度の変化に対応できる。また、大統領制では統治機構の変更が国家運営に直結するため憲法改正が多く、議院内閣制では法律改正で対応しやすい。さらに、日本のように改正手続が厳格な国では、憲法改正のハードルが高いため、法律改正による対応が一般化している。したがって、憲法改正の頻度は、各国の制度的枠組みによって大きく異なっていることが分かり、興味深かった。 |
| 吉岡 | 女性へのステレオタイプ | 女性に対してステレオタイプを持っている男性という男性は多いと思う。例えば私生活でも男性と比べて身の回りをきれいにしているとか、講義内で出された女性ならではの感性や女性の会議は長引くといったのも捨てれをタイプの秘湯になる。このような捨てれをタイプというのは女性の社会参加を妨げる一因であると考えられるため、教育学部である私たちがそのような差別化をしない大人を育てていく必要があると考えた。 |
| 渡邊 | 女性のいない民主主義について | 日本だけではなく世界でもジェンダーについて問題となっているが、日本の国会議員はほとんどが男性であることが重要な問題であると考えたため。女性が活躍できる社会を目指しているのに、女性だからという理由で選挙で負けてしまったり、活躍できる場面を減らされてしまっていることは問題であると感じた。社会は男性の声だけでは成り立つものではなく、よりよいものにもならないと考えている。日本に住んでいるすべての人の意見を聞くこと、それを実践していくこと、これが国民に求められていることでありジェンダーに関する問題を解決していくための一歩なのではないかと考える。 |